

公開実用 昭和 58—112115

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭58—112115

⑤ Int. Cl.³
A 45 C 11/20

識別記号

庁内整理番号
6455—3B

⑭ 公開 昭和58年(1983)7月30日

審査請求 有

(全 頁)

⑮ カセット弁当ケース

⑯ 実 願 昭57—10254

⑰ 出 願 昭57(1982)1月27日

⑱ 考 案 者 中山剛

札幌市中央区南1条西8丁目5

⑲ 出 願 人 番地有限会社大丸商事内
有限会社大丸商事

札幌市中央区南1条西8丁目5
番地

⑳ 代 理 人 弁理士 川成靖夫

明 細 書

1. 考案の名称

カセット弁当ケース

2. 実用新案登録請求の範囲

開閉自在の蓋 2 を有する弁当ケース体 2 における上記蓋 2 にくぼみ部 2 A あるいは開口部 2 B を形成し、上記くぼみ部あるいは開口部に加熱に不適当なおかず類を収納する中仕切 3 を挿脱自在に嵌合せしめ、上記中仕切と蓋とは着脱自在のテープ 4 で固定されていることを特徴とするカセット弁当ケース。

3. 考案の詳細な説明

本案は新規な構成を有する弁当^{ケース}箱を提供しようとするものである。

従来、スーパーなどで販売されている弁当類

特許
加
入
3
字

は P S , O P S などを素材としてなる弁当ケースに米飯、おかずと一緒に収納されており、お客様の希望により当該弁当を電子レンジなどにより全体を加温している。しかし、弁当のおかずにたとえば、漬物、サラダの如き加熱に適さないものが入っている場合でも一括して電子レンジで処理しなければならない。

本発明は、このような問題を充分解決しようとするもので、以下図面を参照しながらその一実施例の詳細を説明する。

1 は本発明の弁当用カセット弁当ケースである。そして、その構成は、開閉自在の蓋 2 を有する弁当ケース体 2 における上記蓋 2、くぼみ部 2 A あるいは開口部 2 B を形成し、上記くぼみ部あるいは開口部に加熱に不適当なおかず類



を収納する中仕切 3 を挿脱自在に嵌合せしめ、
上記中仕切と蓋とは着脱自在のテープ 4 で固定
されている。なお、2 A' は中仕切を取り出す場
合指先を入れるくぼみ部、3 A は中仕切 3 の開
閉自在の蓋、4 A は上記テープ 4 の表面に印刷
された引きはがし方向を示す矢印を示す。また、
弁当ケース体の素材はポリスチレン、あるいは
ポリスチレンペーパーがまた蓋の素材はオリエ
ンテーションポリスチレンなどが使用されてい
る。

本案のものは上述の如く構成されているから、
上記中仕切内に加熱に不適な漬物、サラダの如
きものを収納しておき、必要に応じてテープ 4
をはがして、中仕切を取り出し、電子レンジで
加熱する。この結果、加熱する必要のあるもの

のみを加熱できる。

4 図面の簡単な説明

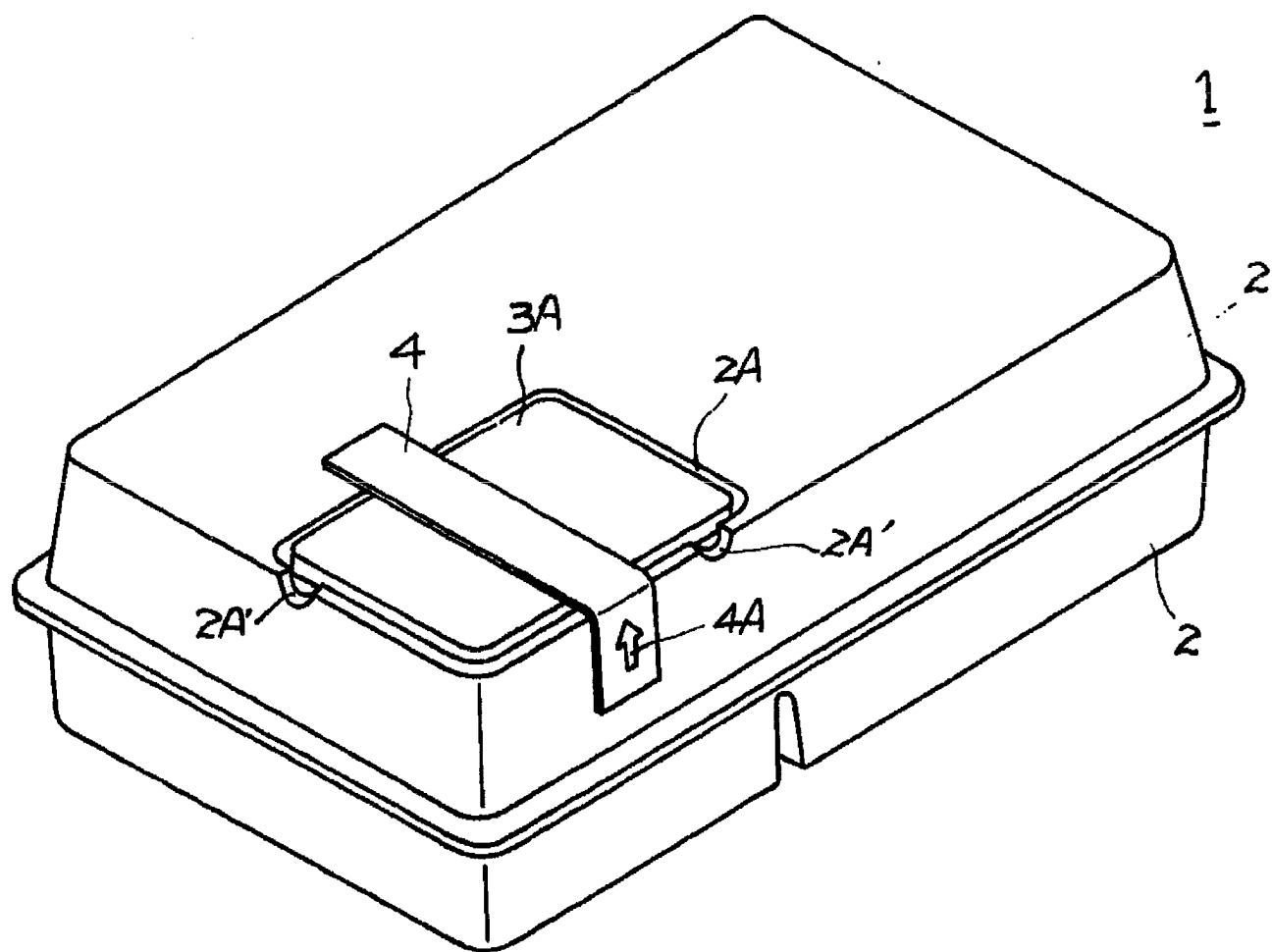
図面は本案の1実施例を示すもので、第1図は斜視図、第2図は分離した状態の斜視図、第3図は他の実施例の分離した状態の斜視図、第4図は使用状態の斜視図、第5図は同上のA—A線拡大断面図である。

1... カセット弁当ケース、2... 弁当ケース体、2'... 蓋、2A... くぼみ部、2B... 開口部、3... 中仕切、4... テープ。

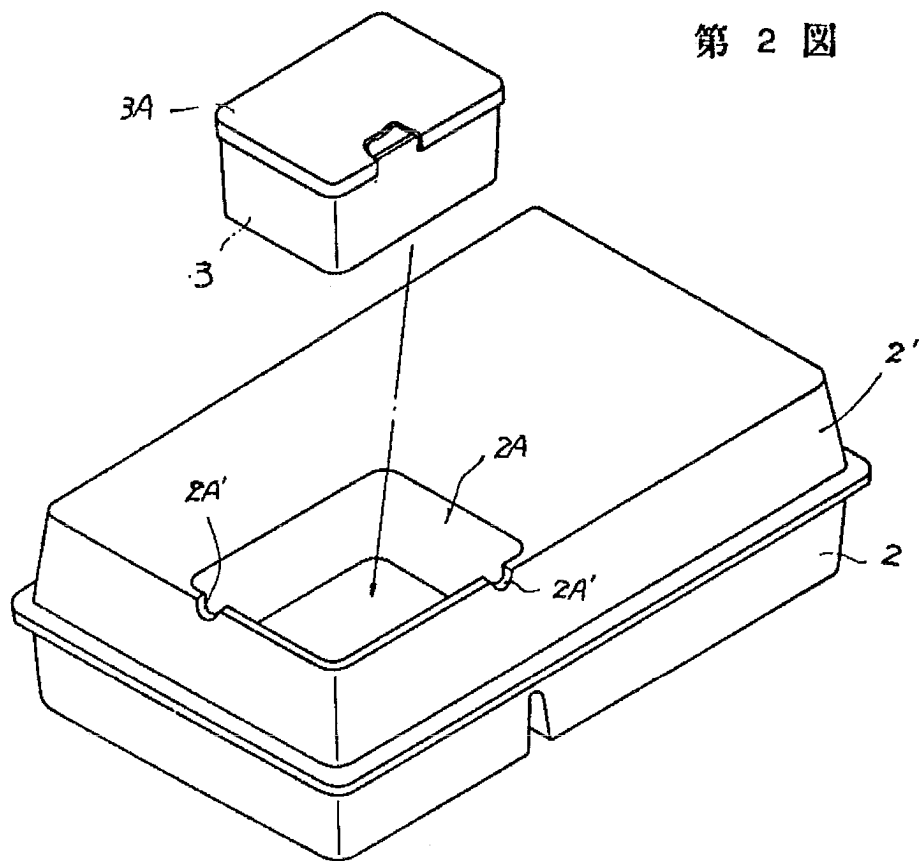
実用新案登録出願人 有限会社大丸商事

代理人 弁護士 川 成 靖 夫

第 1 図



第 2 図

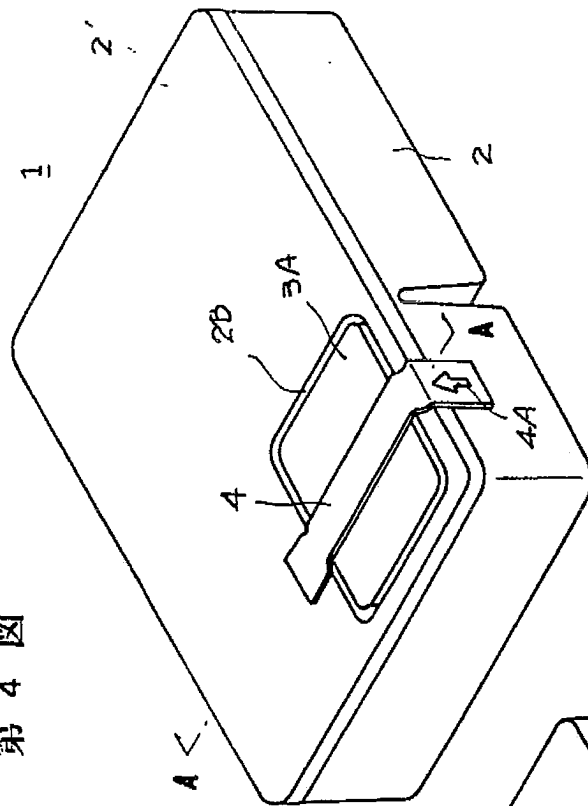


ee 22

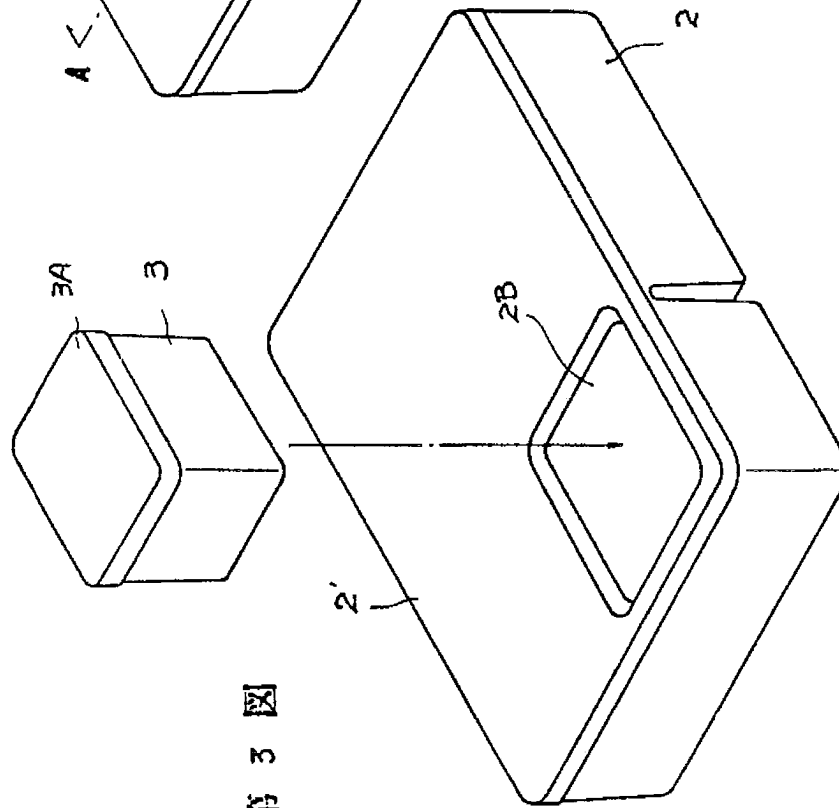
实用新案登録出願入 有 限 公 司

代 理 人 弁 理 士 小 川

第 4 図



第 3 図

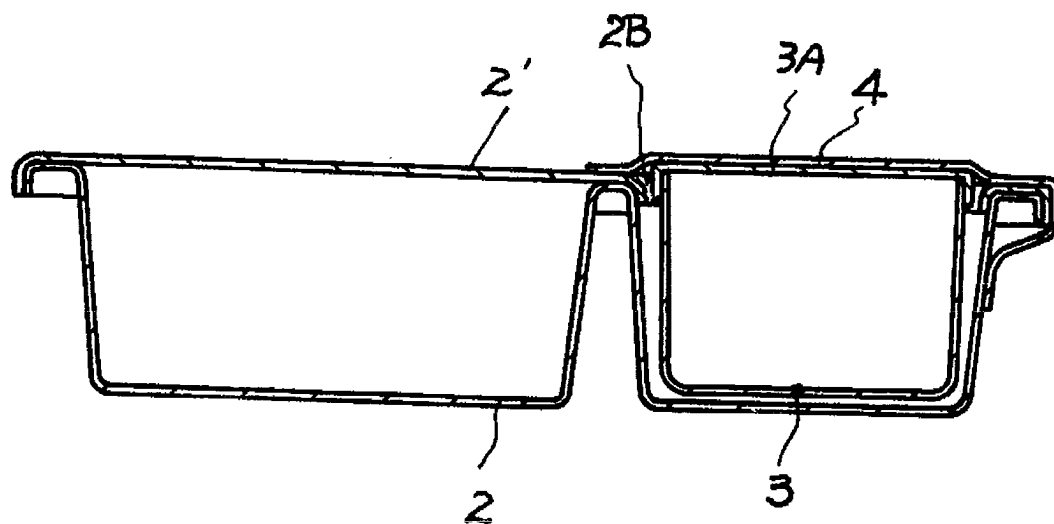


112115

英用新柔益録出願人 有限会社大丸商事

代理人 井理士 川 威 精 夫

第 5 図



101

実開58 112115

実用新案登録出願人 株式会社大丸商事

代理人 弁理士 川 成 靖 夫